



ラグビーに見る多文化共生

校長 新井 篤志

ラグビーワールドカップ 2019 が日本で開催され、日本がベスト 8 に進出するなど日本中がラグビーを通して盛り上がっているのを感じます。「ONE TEAM(ワン チーム)」という言葉が表すように、みんなが一つの目標の達成に向かって自分の役割を果たしながら取り組む素晴らしさを伝えてくれたとも思います。また、予選プールはもちろんのこと準決勝・決勝が横浜で行われるのは横浜の歴史とのかかわりから考えて意義のあることかとも感じます。

今の横浜の誕生と発展は、ペリー来航をきっかけとする開国、そして明治維新以降の文明開化と切っても切れない関係にあります。西洋の文化の多くが横浜の港を通じて、日本中に広まってきました。ラグビーも日本では横浜が発祥です。様々な国々の文化を受け入れる窓口になっていたのが横浜の特色の 1 つといえるでしょう。

ラグビーの代表チームの特徴の一つに、日本に限らず決められた条件に合えば様々な国の出身者が代表チームの選手になれることです。これは代表選手概念が、他のスポーツとは違うところと言えるかもしれません。出身の国は異なってもラグビーを通して、目標に向けて一致団結して達成しようとする姿や、日本のおもてなしの 1 つとして対戦国双方の国歌を一緒に歌ったり、各国の代表チームが試合終了後に応援した観客に日本のおじぎで挨拶をしたりする場面もありました。互いの文化を尊重する姿勢の心地良さも伝わってきました。グローバル化が進むこれからの時代において重要な示唆と感じました。

横浜は海外との交流を通して様々な文化と触れ合いながら発展してきた国際都市です。これからの時代は多文化共生をどのように実現していくかの時代ともいえます。今回のラグビーワールドカップが、子どもたちに多文化共生への考え方を広めるきっかけになればと思います。

